

論文内容要旨

Sex Differences in the Effects of a Biological Drug for Rheumatoid Arthritis on Depressive State

関節リウマチ患者に生物学的製剤を使用することによる薬剤の有効性、ADL、QOL、抑うつ状態の改善には男女差があるか

The Open Rheumatology Journal, 2015:9 51-56

内科学（リウマチ膠原病内科） 徳永剛広

関節リウマチ患者における生物学的製剤の有効性，activity of daily living (ADL)，quality of life (QOL)の推移についての報告がされていた．昨今，性差医療が注目されているが，男女の違いによる生物学的製剤の有効性，ADL，QOL，抑うつ状態の差を検討した報告は少ない．今回は男女による比較検討を行った．

昭和大学病院リウマチ膠原病内科外来通院中の関節リウマチ患者 161 人（女性 138 人，男性 23 人）を対象とした．観察期間 30 週間での関節リウマチの疾患活動性の評価 SDAI (The Simplified Disease Activity Index)，ADL (modified Health Assessment Questionnaire; mHAQ)，QOL (Short Form (SF)-36)，抑うつ状態 (The Hamilton Depression rating scale (HAM-D)) の変化を男女で比較検討した．生物学的製剤は，インフリキシマブ・エタネルセプト・アダリムマブ・トシリズマブ・アバタセプト・ゴリムマブの 6 剤を対象とし，その選択は各担当医に一任とした．基礎データとして，両群における年齢，ステロイド使用量の比較検討も行った．

観察期間 30 週間で女性群の平均 SDAI は， 22.1 ± 11.9 から 8.9 ± 7.8 ($p < 0.001$ に，平均 mHAQ スコアは 0.46 ± 0.50 から 0.32 ± 0.45 ($p < 0.001$) に，平均 HAM-D スコアは 6.2 ± 4.8 から 3.8 ± 4.1 ($p < 0.001$) にそれぞれ統計学的に有意に改善し，SF-36 においても全てのカテゴリーで統計学的に有意に改善した ($p < 0.001$)．一方男性群の平均 SDAI は， 27.9 ± 11.7 から 12.7 ± 8.6 ($p < 0.001$) に統計学的に有意に改善したが，平均 mHAQ スコアは 0.58 ± 0.50 から 0.37 ± 0.63 ($p = 0.078$) に，平均 HAM-D スコ

アは 5.6 ± 3.9 から 4.8 ± 3.9 ($p=0.147$) と改善を示したものの、統計学的に有意な改善を認めなかった。SF-36 の全てのカテゴリーにおいて改善を認めたものの、統計学的に有意な改善は認めなかった。

関節リウマチ患者に生物学的製剤を使用することによる薬剤の有効性、ADL、QOL、抑うつ状態の改善には男女差がある。